

ESD研修旅行で学んだことを生かした授業実践報告

広島市立大芝小学校 沖西啓子

1 研修旅行の目的

オランダ・ドイツにある様々な施設を実際に見学する活動を通して、戦争の悲惨さや平和の大切さを学び、それをESDの視点から小学校社会科や総合的な学習の時間の授業実践に生かす。

2 研修旅行先での主な研修場所

1) アンネ・フランクの家（平和）

アンネ・フランクの家は、アンネとその家族が1942年から1944年までナチスの迫害を逃れるために住んでいた隠れ家をミュージアムとして公開している。アンネはこの隠れ家で物語を読み、日記を書いて過ごした。ここには日記の原本が展示されており、どのように隠れ住んでいたかなどの具体的な説明もあった。アンネたち家族は、隠れ家に身を隠していることがナチス親衛隊(SS)にばれ、強制収容所へ送られる。アンネは、そこで連合軍の開放を数日前にして亡くなる。アンネの家族の中では父オットー・フランクだけが生き残り、彼がアンネの日記を公開する。

アンネは隠れ家での生活でも希望を失わずに、日記に自分の心の思いを書き続けた精神力の強さに圧倒された。世界に平和を発信する都市「ヒロシマ」に生きる私たちが、広島や日本のことだけではなく、世界で起きた出来事も視野に入れて平和について考えていくことは必要であると感じた。

2) ダッハウ強制収容所（平和）

ダッハウ強制収容所はドイツ国内に設置された最初の強制収容所で、当時の収容所での生活などがパネル展示してあった。収容所での衛生状態は劣悪で、飢えやチフスといった病気で命を落とす人も少なくなかった。現在は、管理棟・収容施設・ガス室などが復元されている。管理棟では、写真や展示資料を通して施設内で行われたことの残酷さが伝わってきた。収容施設では囚人たちが使用したベッドやロッカーが復元されている。また同じ敷地内は、火葬場や囚人を乗せた列車が到着したレールやホーム、連行された囚人の様々な宗教のために、礼拝堂が4つあった。戦争という心理的に追い込まれた状況の中での、人間の集団心理の異常さ・恐ろしさを感じた。ほんの70年前に起こった恐ろしいできごとを後世に伝えることで、二度と同じことを繰り返してはいけないと強く感じた。

3) ミュンヘン・リーム地区（環境）

ミュンヘン地区にはオリンピック(1972年)の際に空港があったが、空港の移転に伴い、空港跡地を開発した。幅広い年齢層が住めるような住宅環境、自然に囲まれた環境づくりを進め、国内外からの視察も多い。リーム空港跡地は開発により、国際見本市会場、住宅開発、商業施設、公園などが造られている。

る。環境住宅では、様々な工夫で超省エネルギーを実現し、一般的な住宅に比べて90%もの電気と石油の削減を達成している。また、車の乗り入れも制限されており、安心して生活できる空間が広がっている。リーム地区の南には、約200haの公園が広がっており、地下水を利用した人口湖や、人口の森もある。地球との調和を重視し、さらにそこで生活する人々に配慮した都市開発が行われている。人と自然が街の中で一つになって共存している姿が印象的であった。

ESDにおける環境という視点から見ると、跡地利用のまちづくりとして参考になる点が多々あった。例えば中山間地域の過疎化、空き家問題、団地の高齢化など、現在の日本の社会問題について児童に考えさせるうえでリーム地区での取り組みは参考にすることができる考えた。

3 研修から学んだ授業実践

現在、我々を取り巻く問題は以前にも増して専門的で、複雑化・多様化している。またグローバル化の進展に伴い、問題の解決にあたっては、国内だけにはとどまらず、国境を越えての協力・協調が不可欠となっている。そのような中、これからの社会を生き抜く子ども達には、地球的規模の問題にも自分のこととして捉え行動する力を育成することが必要になってくる。

また、ESD実践するには、何のために何を学ぶのかだけではなく、どのように学ぶかが重要である¹⁾。授業開発するにあたっては、持続可能な社会を形成していく多様な価値観や、ESDを実践するための思考力・判断力を育成したい。また体験や活動だけではなく、問題解決的な学習過程を取り入れ、学習者を中心とした学び、グループで話し合ったり協力したりする協働的な学びを大切にしたいと考えた。

広島子ども達が学習するのであれば、まずESDの中でも平和の分野から取り組むことにする。また、アンネ・フランクであれば児童と年齢も近いこともあり、共感できる部分も多いであろう。そこで、アンネ・フランクの家で研修したことをもとに、授業開発・実践することにした。

1) 目標 フロイド・シュモーやアンネ・フランクの生き方から、戦争の恐ろしさや平和の大切さを学ぶとともに、世界の平和のために自分にできることを考える。

2) 実施学年・教科 小学校第4学年・社会科、総合的な学習の時間

3) 単元計画

第一次 広島の復興を支えたフロイド・シュモーの生き方を知る。

第二次 最後まで希望を失わなかったアンネ・フランクの生き方を知る。

第三次 フロイド・シュモーとアンネ・フランクの共通点を見い出す。

第四次 二人の生き方から、世界の平和のために自分にできることを考える。

4) 指導計画

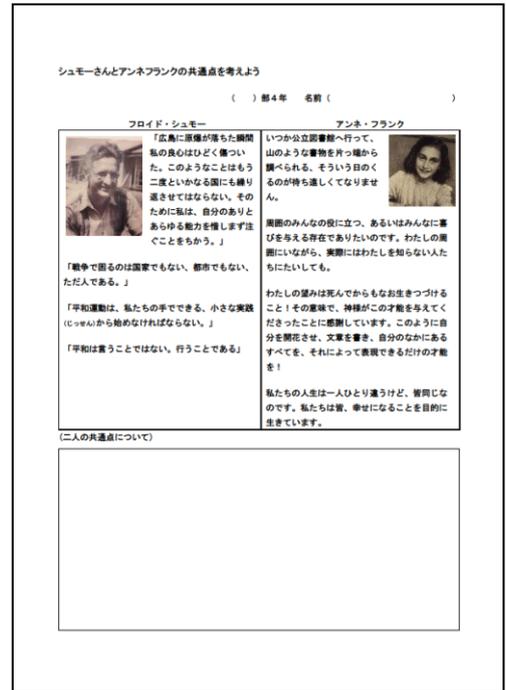
主な学習活動と内容	予想される発言	□教師の手立て ○評価 ☆資料
<p>1 シュモーさんの年表から、詳しく調べたいことを話し合う。</p> <p>なぜ、シュモーさんは一生をかけて広島のことを考え続けたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シュモーさんはアメリカ人なのに、なぜ広島の人たちを助けようとしたのか ・戦争は絶対反対していた <p>2 家を建てるまでのシュモーさんの活動について調べ、分かったことや考えたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでも家を建てたり修理したりしたことがあった ・戦争で住む人がいなくなった日本人の家の修理をしたこともある <p>3 家を建設するときの苦労について調べ、考えたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・募金活動をし、必要な建築材料をアメリカから持参した ・日本人の学生ボランティア 20 人も協力した <p>4 家を建てた後のシュモーさんの活動を調べ、分かったことや考えたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広島で家を建設した後、長崎でも家を建てている ・遠く離れたところにおいても、広島のことを忘れなかった ・世界の平和についてずっと考えたかった <p>5 アンネ・フランクの年表から、詳しく調べたいことを話し合う。</p> <p>なぜ、アンネは隠れ家でも希望を失わずにいられたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンネはたった 15 才で亡くなった ・隠れ家にいる間、日記を書き続けた 	<p>○ シュモーさんの年表を読み取ることで、彼の行動に関心をもつ。</p> <p>☆ シュモーさんの年表</p> <p>☆ シュモーさんの活動がわかる写真</p> <p>○ シュモーさんの、戦争・原爆で傷ついた一般の市民の助けになりたいという思いを理解することができる。</p> <p>☆ 家を建設中の写真</p> <p>□ 家を建てるという、自分にできることを実践したことに気づかせたい。</p> <p>○ 文化の違う日本で家を建てる苦労を理解することができる。</p> <p>□ 当時と現在の社会情勢の違い、アメリカと日本の建築様式の違いなどについては補足説明する。</p> <p>○ 一生をかけて活動を続けたシュモーさんの生き方に対して、自分なりの考えをもつことができる。</p> <p>☆ シアトルの公園にあるサダコ像の写真</p> <p>☆ ピースパークを造ったことを伝える新聞記事</p> <p>□ 自分にできることを一生続けたシュモーさんの生き方について考えさせたい。</p> <p>○ アンネ・フランクの年表を読み取ることで、彼女の行動に関心をもつ。</p>	<p>○ シュモーさんの年表を読み取ることで、彼の行動に関心をもつ。</p> <p>☆ シュモーさんの年表</p> <p>☆ シュモーさんの活動がわかる写真</p> <p>○ シュモーさんの、戦争・原爆で傷ついた一般の市民の助けになりたいという思いを理解することができる。</p> <p>☆ 家を建設中の写真</p> <p>□ 家を建てるという、自分にできることを実践したことに気づかせたい。</p> <p>○ 文化の違う日本で家を建てる苦労を理解することができる。</p> <p>□ 当時と現在の社会情勢の違い、アメリカと日本の建築様式の違いなどについては補足説明する。</p> <p>○ 一生をかけて活動を続けたシュモーさんの生き方に対して、自分なりの考えをもつことができる。</p> <p>☆ シアトルの公園にあるサダコ像の写真</p> <p>☆ ピースパークを造ったことを伝える新聞記事</p> <p>□ 自分にできることを一生続けたシュモーさんの生き方について考えさせたい。</p> <p>○ アンネ・フランクの年表を読み取ることで、彼女の行動に関心をもつ。</p>
<p>6 隠れ家に逃げるまでのアンネの行動について調べ、分かったことや考えたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユダヤ人迫害を恐れて、ドイツからオランダに引越 	<p>☆ アンネ・フランクの年表</p> <p>☆ アンネ・フランクの顔写真</p> <p>○ ユダヤ人が戦争がひどくなるにつれて、どんどん迫害されていったことを理解することができる。</p> <p>☆ アンネの日記に書かれた言葉集</p>	<p>☆ アンネ・フランクの年表</p> <p>☆ アンネ・フランクの顔写真</p> <p>○ ユダヤ人が戦争がひどくなるにつれて、どんどん迫害されていったことを理解することができる。</p> <p>☆ アンネの日記に書かれた言葉集</p>

<p>した</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校はモンテッソーリ教育の学校だったが、中学校はユダヤ人学校に行った <p>7 隠れ家で生活しているときのアンネの行動や思いについて調べ、分かったことや考えたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平和な世の中になったら、ジャーナリストになりたいかった ・みんなの役に立つ、みんなに喜びを与える存在でありたいと考えていた <p>8 これまで学習したことをもとに、フロイド・シュモート、アンネ・フランクの共通点について整理する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 当時のドイツでの様子の写真 □ 第二次世界大戦やナチス・ドイツに関することは補足説明をする。 ○ アンネの日記の一部を読むことで、長い隠れ家生活でも希望を失わなかったことに気づくことができる。 ☆ アンネの日記に書かれた言葉集 □ 資料を読み取ることで、アンネ達の隠れ家生活には多くの人々が協力してくれていたことに気づかせたい。 ○ フロイド・シュモート、アンネ・フランクの生き方をふり返り、二人の共通点＝平和への思いについて気づくことができる。
<p>フロイド・シュモートとアンネ・フランクの共通点を考えよう。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・戦争のない、平和な世界にしたい ・誰かの役に立ちたい <p>9 戦争のない世の中にするためにできることを考え、話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 二人の年表 ☆ これまで学習した資料 ○ シュモートさんやアンネの活動や言葉を知ったことで学んだことを話し合う中で、将来自分にできることを考えることができる。
<p>シュモートさんの活動やアンネの考えを知ったうえで、これから私たちは何ができるだろう。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・シュモートさんもアンネも多くの人々に支えられていた ・私たちがいろんな人に支えられて生きている ・シュモートさんもアンネも平和を考え続けた人だったと思う ・世界が平和になるために、できることを考えよう <p>10 平和への思いを大事にしながら折り鶴を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平和への思いを込めて折り鶴を作ろう ・平和記念公園に折り鶴を持って行きたい 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 二人の年表 ☆ これまで学習した資料 □ これまでの資料をもとに、広島に住んでいる子どもとして、何ができるのか具体的に考えさせたい。 ○ 世界の平和を考えながら折り鶴を作ることで、自分にできることを考えることができる。 ☆ 折り紙 □ 折り鶴は平和に関する施設へ献納する。

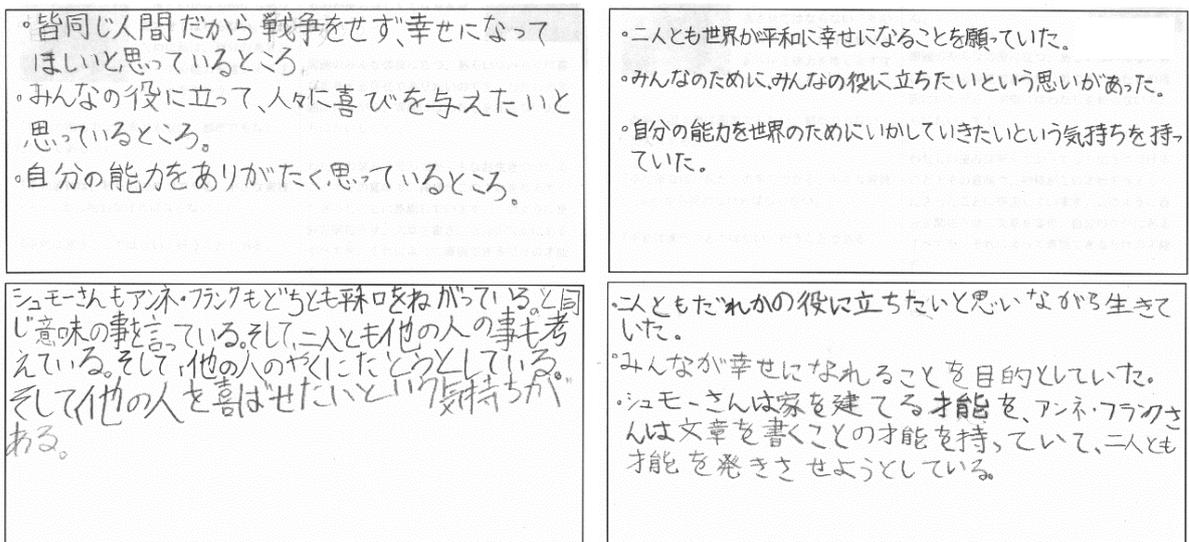
4 研修成果と課題

今回実践した授業では、まず初めにフロイド・シュモアの生き方を学び、次に「アンネの日記」の言葉から、彼女の考え方を学んだ。そのうえで、第8時ではフロイド・シュモアと、アンネ・フランクの遺した言葉から二人の共通点を考えた。

アンネは短い人生ではあったが、自分の考えをもち、平和な世の中になることを待ち望んでいた。戦争が終わったら、やりたいこともたくさんあり、希望を失っていなかったことが日記の中の言葉から読み取れる。フロイド・シュモアとアンネ・フランクは、生きた時代こそ同じではあるが、国・人種・性別・年齢・宗教などは違っている。その二人の共通点を自分で考え、さらに全体で交流することで、児童は、二人とも世界が平和になり、みんなが幸せに暮らせる世の中を望んでいたこと、自分



【図1 第8時で使用したワークシート】



【図2 第8時での児童の感想】

にできることをしようとしたことが共通していることに気づくことができた。

第10時に作った折り鶴は、平和記念公園か、シュモアハウスに持って行きたいという意見が出た。児童と話し合った結果、平和記念資料館の附属施設であるシュモアハウス（広島市中区）に献納することになった。シュモアハウスにはフロイド・シュモアが活動している様子がパネル展示してあり、さらに平和への思いを強くすることができた。



【図3 折り鶴を献納している様子】

課題としては、フロイド・シュモーに関する資料が少なく、教師が少ない文献から児童用にまとめ、それを読み取る活動が多くなってしまったことである。学習者を中心とした主体的な学びを展開するには、児童自身が調べたことをもとにグループで話し合ったり、表現したりする協働的な学びを十分に確保することを大事にしたい。

5 今後の取り組み

研修旅行で学んだ戦争の悲惨さ、平和の大切さを生かし、今回はアンネ・フランクを教材として取り上げ、ESD の中でも平和を意識して授業開発した。身近な平和から世界の平和について深く考えさせる授業は、これから持続可能な社会を形成していく子どもの思考力・判断力を育成していくうえで重要であり、今後も学習材や視点を変えて実践していく必要がある。そのような授業を積み重ねていくことで、人種や宗教、価値観などを超えて、世界の人々が協力し行動できる子どもを育成することができるだろう。

ESD 研修旅行では、持続可能な都市開発を進めているミュンヘンのリーム地区の見学もした。広島市の郊外住宅地での空き家問題の現状を知り、リーム地区の開発のあり方を参考にしながら、今後の対策を考えさせる授業を開発することができると考えている。

【引用・参考文献】

- 1) 文部科学省国際総括官付 日本ユネスコ国内委員会『E S D (持続可能な開発のための教育) 推進の手引き (初版)』
2016 年
- アンネ・フランク・ハウス『アンネ・フランクの家 物語のある博物館』2015 年
- 早乙女勝元『母と子でみる アンネ・フランク 隠れ家を守った人たち』草土文化、1984 年
- 今田洋子ほか『ヒロシマの家 -フロイド・シュモーと仲間たち-』シュモーに学ぶ会、2014 年
- フロイド・シュモー『日本印象記 ヒロシマの家』広島ピース・センター、1953 年